

■台湾：第一発電所の2基、環境アセスメントが認可され初の廃炉作業へ

台湾の環境規制当局である行政院環境保護署は2019年5月15日、台湾電力会社が提出していた第一原子力発電所の1号、2号機ユニットの廃炉環境アセスメントを認可した。これで台湾電力会社は、廃炉作業に着手する。廃炉計画では、原子炉の停止プロセスに8年、施設の解体に12年、環境回復に5年の計25年間を要する上、300億台湾ドル（1,100億円相当）の費用がかかるとされている。台湾電力会社は、廃炉費用を理由とした電気料金の値上げはなく、また廃炉作業は監督官庁の厳格な管理と規制の下で安全に進めるとしている。